

美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum



海岸に現れたアオバトの群れ（苫小牧市字糸井）

目次 Contents

01 特集 特別展「九谷赤絵の極致—宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界」

02 展覧会コラム1 企画展「ボン・ヴォヤージュ！—アートの森へ旅にしよう」
～ 3作家による多彩な展示空間 ～

02 展覧会コラム2 企画展「こどもとおとなの美術展2024～いのちと自然の造形譚」
～ 目と心で感じるアート ～

03 展覧会コラム3 企画展「足もとから見つける、まちの自然」
～身近な場所から自然に親しむきっかけに～

03 クローズアップ1 アイヌの丸木舟について共同シンポジウム開催

03 クローズアップ2 秋田県で新資料の発見

04 コラム1 郷土学習の実施について

04 コラム2 令和6年度アイヌ政策推進交付金事業

04 埋文センター活動報告／勇武津資料館通信

05 報告 令和6年度事業記録

06 令和6年春季展示室の貸出事業

07 館長コラム／令和7年度展示会情報／PR次回特別展／表紙の写真／編集後記

特別展「九谷赤絵の極致―宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界」



子ども絵付け体験

「九谷赤絵」とは、九谷焼の様式のなかで、赤と金の細密描写を特徴とする華やぎあるものです。九谷焼における赤絵は、江戸前期の古九谷を経て、現在の石川県加賀市に創業した再興九谷の宮本屋窯（1832～59／天保三～安政六）で大成したとされています。宮本屋窯の緻密な文様で絢爛豪華な赤絵作品は、やがて明治期に「ジャパングタニ」として世界に名を馳せた輸出九谷の誕生や発展につながります。宮本屋窯の作品は、陶工の技量と教養が発揮された独自性ある表現が魅力で、主画工の飯田屋八郎右衛門（1801～48／享和元～嘉永元）が手掛けたものは、特に優れた手腕が発揮され、宮本屋窯は、別名「飯田屋窯」とも呼ばれています。

宮本屋窯の作品は、完成に多くの時間を要するため、現存数が非常に少なく、全国的に一堂に展示・紹介される機会はこれまで一度もありませんでした。令和6年度の夏に開催した特別展「九谷赤絵の極致―宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界」では、石川県九谷焼美術館の協力のもと、貴重な宮本屋窯の画工・飯田屋八郎右衛門の作品を中心に、江戸後期の華やかな「九谷赤絵」の世界をご紹介します。当館では、博物館時代から折にふれて陶磁器の名品展を開催し、美術博物館としての開館記念展も陶

磁器をテーマにしたものでした。「九谷赤絵の極致」展は、開館以来11年ぶりの陶磁器の展覧会ということで、アンケートや直接のお声から、開幕前から多くの方に関心を寄せていただいたことがうかがわれました。

会期中は、関連イベントとして、東京国立博物館特任研究員の今井敦氏のご講演を夜間に開催したほか、現役の九谷焼作家の福島武山氏を石川県からお招きし、絵付けの実演会と子ども絵付け体験を行い、いずれも多くの参加者にお楽しみいただきました。

本展は、全国7会場を巡回するものでしたが、複数館の学芸員が力を合わせて作成した300ページを超えるフルカラーの図録には、それぞれの知見を反映した論考を寄せることができ、展示内容を充実させることのできた意義のある機会であったと感じます。本展を通じて深められた美術館同士のネットワークを生かし、今後も市民の皆様が多様な芸術作品に触れていただける機会がふくれるよう努めたいと思います。

立石 絵梨子（主任学芸員／美術）



展示風景



絵付けの実演会

展覧会 コラム1

企画展「ボン・ヴォヤージュ！ーアートの森へ旅にでよう」 ～ 3作家による多彩な展示空間 ～

本展の展示空間は、3名のアーティスト、藤沢レオ氏、森迫暁夫氏、吉田傑氏の作品を自由に組み合わせることにより構成され、三作家のイメージに満ちた作品群を同一空間に混在させることで「アートの森」の創出が図られました。

鉄や繊維、木の枝などを素材とする作品により、一貫して人間の生と死や不可視の原理を視覚化する彫刻や空間を創造する藤沢レオ氏、動植物や自然現象をモチーフに、生命ないし万物の循環・変容といった自然の摂理を表現する森迫暁夫氏、そして、素材としてのダンボールを駆使しながら実物大の動物を造形し、表皮や毛の質感等の再現により固有の存在感を造形する吉田傑氏。三者三様のアーティストが創造する世界は、いずれも表現手法や扱う素材は異な

るものの、自然や生命に着想を得た独創的な作品世界を築き上げている点で共通しています。金色に輝く木の枝や等身大のダンボール製の生きもの、そして精霊のような不思議なキャラクターたちが点在するその空間は、アートのもつ楽しさを体感できる空間として結実していました。

ちなみに本展のタイトル「ボン・ヴォヤージュ」とは、「よい旅を」という意味を有するフランス語の挨拶です。展示室を彩る本物のような動物たちや、それを取り囲む自然を題材とするユニークな作品たちとの出会いは、展示室を旅する私たちを魅了すると同時に、新たな発見や感動を与えてくれたのではないのでしょうか。

細矢 久人（主査／美術）



展示風景（第1展示室）



展示風景（第2展示室）



展示風景（第2展示室）

展覧会 コラム2

企画展「こどもとおとなの美術展2024～いのちと自然の造形譚」 ～ 目と心で感じるアート ～

当館において「こどもとおとな」と銘打つ企画展として9年振りの開催となった本展は、作品鑑賞を通してその魅力に親しんでいただく教育普及的な美術展です。

「いのちと自然の造形譚」をテーマとする本展では、動植物や人などの生命を表す造形作品105点を紹介しました。子どもから大人まで幅広い方々が、作品に込められた意味や内容、そしてそこから広がる物語を想像していただけるよう様々な趣向を凝らしたのも本展の大きな特色のひとつです。展示作品の近くに鑑賞の手がかりとなるような問いかけを記載した小パネルを散りばめたり、遠藤ミマンの絵画《ジャズ》の展示空間をステージに見立てたり、絵画の中

の登場人物のポーズを模倣するコーナーを設けたりしました。

アンケートの感想欄には、「親子で考える内容となっており、会話につながる良い展示でした」「靴を脱いで鑑賞するものなど体験型が多く、とても楽しかったです」「お子さん目線で楽しめるような工夫がされていましたが、大人の私でもこういう見方があるんだと発見になりました」といったご好評の声が多く見受けられました。

今後も機会があれば、今回の展覧会のように皆様にお楽しみいただけるような展示の機会を設けられればと考えています。

細矢 久人（主査／美術）



展示解説会



展示風景（第1展示室）



展示風景（第2展示室）

展覧会 コラム3

企画展「足もとから見つける、まちの自然」 ～身近な場所から自然に親しむきっかけに～

当館では、初めて「苫小牧の市街地の自然」をテーマにした企画展「足もとから見つける、まちの自然」を令和6年12月21日から令和7年3月16日まで開催しました。

展示では、約50倍に拡大したミヤマクワガタとオオスズメバチの精巧な模型や、色や形をそのまま残した植物の立体乾燥標本、さらには夏に市街地や海岸に飛来するアオバトの子育ての様子を撮影した世界初の映像など、多様な視点から市街地の自然を紹介しました。また、顕微鏡でコケの葉の形や細胞を観察したり、昆虫の樹脂封入標本

に触れることができる体験コーナーも設置しました。

この展示は、冬の開催にもかかわらず、テレビや新聞などで取り上げられたこともあり、市内外から幅広い年齢層の方々にご来場いただきました。特に昆虫の拡大模型や体験コーナーは、子どもに限らず大人にも人気で、楽しみながら学べる展示として好評でした。本展を通じて、多くの方が日常生活の中で自然に親しむ機会になっていただけたら嬉しく思います。

江崎 逸郎（主査／自然史）



展示風景（第1展示室）



展示風景（第2展示室）

クローズアップ1



シンポジウム風景

アイヌの丸木舟について共同シンポジウム開催

苫小牧市教育委員会と白老町にある国立アイヌ民族博物館は、令和6年5月18日に共同シンポジウム「アイヌの舟と交易」を開催いたしました。

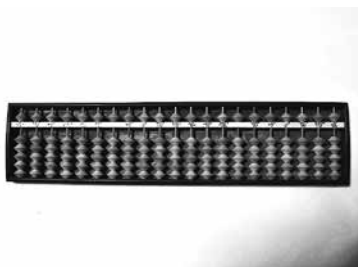
当館では、所蔵している9艘の丸木舟（うち5艘は道指定有形文化財）について、国立アイヌ民族博物館と共同で調査研究を実施しています。あわせて国立アイヌ民族博物館は、同館で展示している厚岸町出土の丸木舟についても調査研究を実施しています。

年代測定や3次元計測といった最新の科

学分析によって得られた成果や丸木舟を用いたアイヌの交易について6人の研究者が基調講演や事例報告を行いました。苫小牧は道内で最も多くアイヌの丸木舟が出土しています。今後も研究を深め、成果について公開していきたいと思っています。

岩波 連（主任学芸員／考古・埋蔵文化財調査センター兼任）

クローズアップ2



須甚のそろばん。交易や漁業経営に使った大事な仕事道具かも？

秋田県で新資料の発見

令和6年3月、秋田県にかほ市象潟町にある旧家で資料調査を行い、苫小牧の歴史に係る資料（そろばんと陶磁器）を新たに発見しました。

そろばんは裏面に「ユウフツ場所勤中須甚」と墨書されていることから、持ち主は須田清左衛門甚吉（弘化3（1846）年生まれ、明治45（1912）年没）と分かりました。須甚は、江戸時代後期にユウフツ場所の場所請負人をつとめた山田文右衛門の下で働いた人物です。幕末には番人としてユウフツ場所で活動していたと考えられてお

り、このそろばんは当時の彼の所持品とみられます。また、同時期に須甚が購入した陶磁器も見つかりました。

これらの品々は、幕末から明治初期のユウフツ場所における山田家や須田家の足跡をうかがえる数少ない物質資料であり、使用年代が明確に特定できる点でも非常に貴重です。

佐藤 麻莉（主任学芸員／歴史）

コラム1



体験学習風景

郷土学習の実施について

当館では例年9月～11月頃にかけて、市内小学校の3・4年生を対象とした社会科学習の一環として、郷土学習を実施しています。平成元（1989）年より継続して実施しており、館内を見学しながら昔の道具に関するクイズに挑戦する見学学習と、実際に道具の使い方を学ぶ体験学習の二本立てで構成しています。

体験学習では、コロナ禍において接触や

密集を防ぐため中止していた石臼体験を昨年度から再開し、先生と児童両方から好評の声をいただいています。

当館に来館するのが初めてという児童も多く、本物の資料に触れる貴重な機会となるこの学習を、今後も学校と協力しながら継続していきます。

沖津 かな（主任学芸員／書）

コラム2



講演会風景

令和6年度アイヌ政策推進交付金事業

当館では、アイヌ民族の歴史や文化を知っていただくために、令和2年度より国のアイヌ政策推進交付金を活用して常設展示室の展示更新や歴史講座を行っています。

令和6年度は、千葉大学名誉教授の中川裕氏による講演会「アイヌ語はどんな言葉か？」を開催しました。「市民がはじめてアイヌ語に触れる」をテーマに、言語学におけるアイヌ語の特徴や日本との歴史的な

関わり、アイヌ語をとりまく現在の状況などを軽妙な語り口で分かりやすくお話しいただき、講演会は大盛況に終わりました。

また、ハンズオン資料(触れることができる複製資料)として、子ども用の衣服(木綿衣)を製作しました。完成した衣服は展示や教育普及事業で使うので楽しみに！

佐藤 麻莉（主任学芸員／歴史）

埋文センター活動報告

今年度も苫小牧市埋蔵文化財調査センターでは、市内の遺跡の調査を行いました。試掘調査を6か所で行った結果、新たに8つの遺跡が登録され、市内の遺跡数は325か所となりました。

試掘調査は、遺跡の可能性がある場所を対象に行いますが、苫小牧市では調査地が原野・森林の場合が多く、エゾシカやキタキツネとの遭遇は珍しいことではありません。さらに今年は、

ヒグマの出没が相次ぎ、調査地の近くでもヒグマと遭遇することがありました。ヒグマは縄文時代から土器の装飾や土製品のモチーフに現れ、儀礼や信仰の対象になっていたと考えられています。野生のヒグマを見たのは初めてでしたが、その力強い姿に縄文人が特別な思いを抱くのももっともだと思いました。

岡本 直樹（学芸員／考古・埋蔵文化財調査センター兼任）



調査風景

勇払資料館通信 八王子市と紡いだ交流の絆 ～手織りサークル「ゆのみ」について～

苫小牧市の姉妹都市八王子は、古くから生糸の産地として養蚕が盛んで、「桑都」という美称で呼ばれました。江戸時代には、織物を扱う市が開かれ、江戸近郊という立地を生かして織物の一大集散地、生産地として発展を遂げました。平成19（2007）年に八王子市から機織り機が本市に寄贈され、勇武津資料館に設置されました。翌年、その活用を目的として立ち上げられた手織りサークル「ゆのみ」（野田悦子代表 会員19名）は、月2回資料館で活動を行い、技術の継承を行っているほか、機織り体験教室や勇払中学校の総

合学習の講師も務めています。さらに、幕末の勇払で藍栽培が行われていた史実にちなみ、勇払小学校・中学校の児童・生徒を対象に藍染め体験授業を職員とともに行うなど、資料館には欠くことのできない支援団体となっています。また、平成21（2009）年からはテーマを決め、会員が制作した作品の展示会を資料館で開催しています。今年度は15回目を迎え、約3千年前の染織技法「スプラング」をテーマに「古代の織りに出会う」と題した展示会を開催しました。会期中は織物体験を交えながら来館者に成果をご覧いただきまし

た。姉妹都市提携から半世紀、八王子の伝統文化である織物が紡いだ交流の糸は、ゆかりの地勇払へと繋がっています。

勇武津資料館 武田 正哉
（主査／歴史）



勇払中学校・勇払小学校合同 総合的な学習の時間「藍染め体験」

報告

令和6年度 事業記録

展示事業

《特別展》

■九谷赤絵の極致

ー宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界

会期:令和6年6月29日(土)～8月25日(日)

観覧者:3,186名

主催:苫小牧市美術館、九谷赤絵全国巡回展開催実行委員会

後援:苫小牧商工会議所、苫小牧信用金庫、北海道新聞社、株式会社苫小牧民報社

①子ども絵付け体験

講師:福島武山氏(九谷焼作家)

日:7月27日(土)

参加者:50名

②福島武山氏・絵付け実演会

日:7月28日(日)

観覧者:79名

③ギャラリーツアー

日:8月3日(土)、8月10日(土)

参加者:23名(合計)

④サンセットトーク

「東アジアにおける宮本屋窯の赤絵の位置」

講師:今井敦氏(東京国立博物館特任研究員)

日:8月24日(土)

参加者:38名

⑤夜間開館

日:7月27日(土)、8月20日(火)～8月25日(日)

参加者:70名(合計)

《企画展》

■ボン・ヴォアージュ!ーアートの森へ旅にでよう

会期:令和6年4月27日(土)～6月16日(日)

観覧者:3,805名

企画協力:株式会社MIMOseele

後援:苫小牧信用金庫、北海道新聞社、株式会社苫小牧民報社

①吉田傑ワークショップ「ダンボールで鹿の角を作ろう」

日:4月28日(日)

参加者:32名

②藤沢レオワークショップ「鉄たたけます。」

日:4月29日(月・祝)

参加者:64名

③森迫暁夫ワークショップ「新聞シルクスクリーン」

日:5月19日(日)

参加者:39名

■子どもとおとなの美術展2024

会期:令和6年9月14日(土)～11月24日(日)

観覧者:5,308名

協力:中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館、東川町文化ギャラリー

後援:苫小牧信用金庫、北海道新聞社、株式会社苫小牧民報社

①対話によるギャラリートーク

日:9月16日(月・祝)、9月21日(土)

参加者:29名(合計)

②ワークショップ「昆虫標本をスケッチしよう!」

日:9月23日(月・祝)

参加者:9名

■足もとから見つける、まちの自然

会期:令和6年12月21日(土)～令和7年3月16日(日)

協力:釧路市立博物館、札幌市博物館活動センター、北海道大学北方生物園フィールド科学センター 苫小牧研究林、株式会社地域環境計画

後援:苫小牧信用金庫、北海道新聞社、株式会社苫小牧民報社

①担当学芸員による展示解説

日:令和6年12月22日(日)、令和7年1月19日(日)

参加者:51名(合計)

②生きものトーク「あつまれ! 苫小牧のどうぶつの森

アオバトの巣やビジョンミルクについて学ぼう」

講師:松岡和樹氏(株式会社地域環境計画)

日:令和7年2月1日(土)

参加者:35名

《収蔵品展》

■遠藤ミマン、モチーフを語る

会期:令和6年12月10日(火)～令和7年3月16日(日)

《中庭展示》

■Vol.20 西田卓司「lost treasure」

会期:令和6年4月27日(土)～11月24日(日)

観覧者:11,818名

《その他》

■ウトナイ湖野生鳥獣保護センター・サテライト展示

会期:令和7年3月～

教育普及事業

■美術館大学講座

対象:一般 登録者数:136名

①「宮沢賢治と北海道～賢治来道100年、未来につなぐ～」・入学式

講師:高橋 励起氏(札幌新陽高等学校 教諭)

日:6月1日(土)

②「AINU ARTー美の在り処」

講師:五十嵐 聡美氏

(元北海道立近代美術館 学芸部長)

日:7月13日(土)

③「遺跡から見る北海道のガラスの歴史」

講師:高橋 美鈴氏(余市水産博物館 学芸員)

日:8月17日(土)

④「変動する積雪環境とそこに生息する微生物の生態

～雪氷微生物学への招待～」

講師:植竹 淳氏

(北海道大学苫小牧研究林 准教授)

日:9月14日(土)

⑤「開拓使時代の苫小牧」

講師:佐藤 麻莉氏(当館主任学芸員)

日:10月5日(土)

⑥「三島由紀夫から太宰治まで

文学に描かれた苫小牧ー苫小牧が出てくる本ー」

講師:山田 香織氏

(紙の街の小さな新聞社ひらく 代表・記者)

日:11月30日(土)

⑦「川上澄生の北海道時代ー異郷へのまなざし」

講師:立石 絵梨子氏(当館主任学芸員)

日:12月21日(土)

⑧「洞爺湖町の考古学」

講師:澤野 慶子氏(洞爺湖町教育委員会 学芸員)

日:1月18日(土)

⑨「地質と文書に記録された胆振地方の地震と津波」

講師:西村 裕一氏

(北海道大学大学院理学研究院 准教授)

日:2月22日(土)

■子ども広報部「びとこま」(全10回)

共催:NPO法人樽前artyプラス

対象:小中学生 全10回、登録者数:20名

■古文書解読講座

対象:高校生～一般

初級編(全5回) 参加者:119名(合計)

中級編(全2回)

■考古学講座

対象:一般

全3回 参加者:86名(合計)

■美術館祭2024

日:7月27日(土)～7月28日(日)

参加者:1,216名

■遺跡報告会

対象:一般

日:3月1日(土)



■苦小牧市アイヌ施策推進事業

講演会「アイヌ語はどんな言葉か？」
講師：中川 裕氏（千葉大学 名誉教授）
日：12月1日（日）
参加者：71名

■2024年「国際博物館の日」記念事業

国立アイヌ民族博物館・苦小牧市美術博物館共同
シンポジウム
「アイヌの舟と交易」
日：5月18日（土）
参加者：85名
主催：国立アイヌ民族博物館・苦小牧市美術博物館
後援：苦小牧アイヌ協会・厚岸町海事記念館

■ミュージアムラボ

対象：幼児～一般
①縄文ボシェットをつくろう
日：7月6日（土）
参加者：8名
②書初め
日：1月5日（日）
参加者：9名
③絵画鑑賞会（共催：苦小牧市美術館友の会）
日：2月20日（木）
参加者：6名
④土笛をつくってみよう
日：3月2日（日）
参加者：10名

■無料開放日

①ゴーゴーミュージアム
日：5月5日（日・祝）
参加者：992名
②あみゅー秋のサンクスデー
日：11月3日（日・祝）
参加者：667名

■見学会・観察会

①歴史見学会「港湾建設の光と影」
日：9月22日（日）
参加者：23名
②自然観察会「身近なコケの観察会」
日：9月28日（土）
参加者：18名

■郷土学習

期間：9月～11月
対象：市内小学校22校3・4年生
参加者：1,396名（合計）

■教員のための博物館の日 in 苦小牧

共催：国立科学博物館、（公財）日本博物館協会
後援：文部科学省
日：8月7日（水）
参加者：66名

■職場体験（全9回）

期間：10月
対象：市内高校1校・中学校8校
参加者：37名（合計）

■博物館実習

日：8月15日（木）～8月23日（金）
参加者：2名

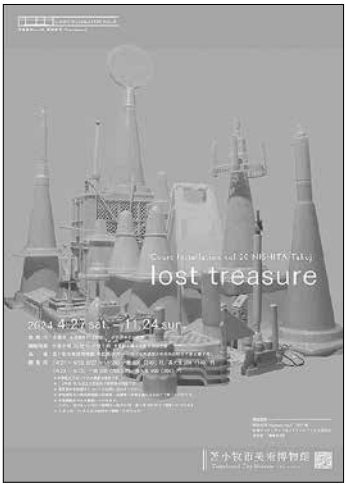
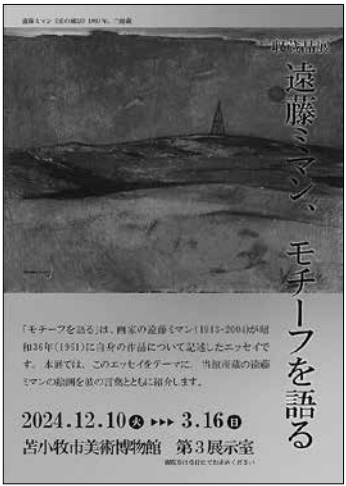
■登録ボランティア

登録者数：52名
研修：全10回

■総合学習・出前講座・講師派遣・アウトリーチ事業

出前講座
①「苦小牧のアイヌ文化を学ぼう」
令和6年10月18日（金）澄川小学校 86名
②「大昔の苦小牧」
令和6年11月27日（水）苦小牧支援学校 52名
③「苦小牧の歴史」
令和6年12月10日（火）苦小牧臨海企業懇話会 28名
④「苦小牧の野鳥」
令和7年2月21日（金）美園小学校 75名
講師派遣
①「静川遺跡について」
令和6年4月25日（木）駅前商店街モーニングプラザ苦小牧 16名
②「特別展 縄文⇄現代について」
令和6年5月10日（金）いしかり縄文・満月の会 19名
③「樽前の鳥のヒミツ」
令和6年5月22日（水）樽前放課後スクール 17名
④「3姉妹都市のつながり（3姉妹都市交流事業）」
令和6年9月25日（水）苦小牧市健康こども部青少年課 11名
⑤「昔の道具について」
令和7年2月13日（木）沼ノ端小学校 60名
⑥「昔の道具について」
令和7年2月19日（水）美園小学校 73名
⑦「土器の拓本をとってみよう」
令和7年2月26日（水）樽前放課後スクール 15名
アウトリーチ
①みゅーじあむinスクール
令和6年12月18日（水）清水小学校 37名

※各事業の入場者・参加者数は令和7年3月2日現在のものです。
※明記のない事業の主催は全て当館によるものです。
※協力等は該当事業のみ記載しています。
※講師未記載は全て当館学芸員が担当しています。



ゴーゴーミュージアム「公園を彩る鳥を探しに行こう」



ミュージアムラボ「縄文ボシェットをつくろう」



歴史見学会「港湾施設の光と影」

令和6年春季
展示室の貸出事業

	展示内容	申請者	期間	来場者数（主催者集計）	展示室
1	U-20若者美術展	苦小牧市美術館友の会	令和6年4月2日～4月6日	359人	第1・2
2	苦小牧美術協会春季展	苦小牧美術協会	令和6年4月7日～4月13日	462人	第1・2・3

館長コラムNO.12

— 1年を振り返って —

今年度は、計6回の展示事業を開催しました。中でも、「足もとから見つける、まちの自然」は3年振りとなる自然史の企画展でした。本展では、当館で活動しているボランティアや子ども広報部「びとこま」の子どもたちと一緒に製作した標本も展示しており、市民と一緒に取り組んだ展覧会とも言えます。当館でのボ

ランティア活動は、企画展での監視活動が中心となっていますが、今年度は前述した標本製作の他にイベント補助、消防本部の協力を得た救命講習会を実施するなど様々な活動を行いました。美術博物館にリニューアルオープンした平成25年に37名のボランティアと歩み始めた活動は、現在52名の協力を得ながら続いています。また、「びとこま」の活動は、NPO法人樽前artyプラスとの共催で平成24年にスタートし、活動回数は累計で

100回を超えました。活動場所も、当館内だけではなく、出光カルチャーパークや新校舎になった樽前小学校、日本製紙(株)白老工場と館外でも活発に活動しています。いずれも美術博物館の職員だけではできない活動で、多くの皆様にご支援いただきながら継続しています。今後も、皆様にご協力いただきながら、多くの市民に親しまれるとともに、楽しんでいただける施設となるよう努めてまいります。 藤原 誠(館長)

令和7年度展示会情報

■特別展

描く人、安彦良和

7月12日(土)～8月31日(日)

■企画展

勇払幻視／北海道・勇払原野のイメージをたどる

一砂田友治・北川豊・高橋伸・高橋正敏

4月26日(土)～6月29日(日)

■企画展

苫小牧の文化財～ひととものがつなぐ歴史～

9月20日(土)～11月30日(日)

■企画展

苫小牧の美術—1940-50年代—

12月20日(土)～2026年3月8日(日)

■特集展示

苫小牧ゆかりの書 市内所蔵品展

4月26日(土)～6月29日(日)

勇払平野の戦争遺跡

12月20日(土)～2026年3月8日(日)

■収蔵品展

福井正治×渡辺貞一

9月20日(土)～11月30日(日)

■中庭展示

中庭展示Vol.21 風間天心「MELTY BUDDHA」

4月26日(土)～11月30日(日)

※展覧会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

PR 次回 特別展

「描く人、安彦良和」

2025年7月12日(土)～8月31日(日)

「宇宙戦艦ヤマト」や「機動戦士ガンダム」でアニメーターやキャラクターデザインを務めたほか、漫画家としても広く活躍する安彦良和の回顧展です。本展では、安彦良和の青年期から現在

に至るまでの様々なジャンルを横断して作家の全貌を明らかにします。本展で初公開される貴重な資料をはじめ、北の大地が生んだ稀代のアニメーター・漫画家の世界をお楽しみください。

岩波 連(主任学芸員／考古・埋蔵文化財調査センター兼任)

作品:『機動戦士ガンダム』(劇場版)ポスター原画 ©創通・サンライズ



表紙の写真 ～市街地や海岸に飛来するアオバト～

毎年夏になると、苫小牧の市街地や海岸にアオバトの群れが現れます。アオバトはその名の通り、緑色の体をしたハトの仲間です。5月頃に苫小牧を含む北海道に飛来し、夏にかけて森林で子育てをしています。



アオバトのはく製(当館所蔵)

アオバトは警戒心が強いので、その子育ての様子はほとんど知られていませんでした。しかし、2021年に松岡和樹氏(株式会社地域環境計画)による調査によって、苫小牧の森で巣をかけたアオバトの子育ての様子が詳細に調べられました。さらに、世界で初めて巢外での子育ての様子を動画で撮影することにも成功しました。

これらの成果は、松岡氏のご協力のもと、令和6年度の企画展「足もとを見つめる、まちの自然」で紹介しました。身近な市街地の自然も、多くの発見や驚きがあります。ぜひ夏の間、市街地でアオバトの姿を探してみてください。

江崎 逸郎(主査／自然史)

■編集後記

本稿で紹介した活動のほかに、美術博物館では多くの活動を行っています。年報や紀要、X(旧twitter)でも情報発信をしていますのでぜひご覧ください。

岡本 直樹(学芸員／考古・埋蔵文化財調査センター兼任)

公式Facebook・X更新中!



苫小牧市
美術博物館より

令和7年3月31日発行・第12号

編集・発行: 苫小牧市美術博物館(あみゅー) 〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7

TEL 0144-35-2550 FAX 0144-34-0408

URL <https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>

開館時間: 9:30～17:00(入館は16:30まで) 休館日: 毎週月曜(祝日の場合は次の平日)、年末年始

